

令和元年度

那須塩原市地域福祉計画・地域福祉活動計画委員の評価集計及び総合評価

基本目標 1 誰もが利用しやすい体制・情報提供の仕組みづくり

＜基本目標に対する総合評価：B＞

【小委員会メンバー】

寺戸博道委員・早乙女順子委員・木村友一委員・池澤守委員・高沢恵委員

1-1 誰もが利用しやすい体制・情報提供の充実 評価：B

- ・1-1-1 の企画部と総務部の D 評価に関しては、逃げている様に感じてしまう。新庁舎ありきではなく、総合相談窓口はソフト面からも話しは進められるはず。また部署によって相談窓口の意識が異なるようなので、理解を統一すべき。
- ・総合相談窓口は単一職員がワンストップで対応するというのであれば、高い援助スキルが求められると思うので、人材育成をどのように行っていくかも課題。
- ・計画の文章を見れば、具体的なことは記載されていないので「B」が良い。しかし、理想を言えば C～D の評価になることは附帯してほしい。窓口に関する明確な目標が無ければ達成はされない。
- ・どこに総合相談窓口を設置するかということよりかは、相談を受ける側が対応できることが重要かと思う。わざわざ看板を掲げる必要は無いかと思う。
- ・「総合相談窓口」という言葉が検討段階における聞こえが良い便利な言葉に感じる。本当に目標をもって取り組む必要がある。

1-2 地域福祉のニーズキャッチの充実 評価：B

- ・ニーズキャッチも重要だが、キャッチしたニーズに対して、どう対応していくのか、どう制度や事業を変えていけるのかということのほうが重要。
- ・把握したニーズに対しては1層協議体が2回/年の協議を行っていると思うが、効果が弱いと感じている。委員が1層協議体の位置づけを捉え、積極的に動いていかなければならない。2層協議体や地域ケア会議を運営している人たちは頭が下がるくらい頑張っている。
- ・1層協議体は、話し合いはしているが、具体的な決定が出来ていない。
- ・他市町の話聞いてみると、那須塩原市の地域ケア会議の活動は発展している。他地区ではどう開催して良いか分からないという段階のところも多い。

- ・大田原市の見守り事業のように事業所と連携することで多方面からのニーズキャッチが可能になるのではないかと思う。
- ・地域支え合い推進員が15公立公民館に配置されたので、公民館との連携が重要になってきていると思う。

1-3 福祉サービスの充実と権利擁護の推進 評価：B

- ・DVや成年後見制度の部分で評価を「C」とした。
- ・ひきこもりなどの対応が難しいケースに対しては、そもそもサービスを充実したところで解決できるのか疑問に思う。
- ・総市民への関わりという意識が必要かと思う。自治会とだけの関わりでは難しい。
- ・制度で対応できない困難ケースの場合、民生委員や自治会に依存している現状がある。